

一般質問



原田全修議員

策として、寸又峡、接岨峡等観光関連施設の整備、交流拠点である茶茗館や音戯の郷などについて効果的な運営、静岡空港開港に向けた外国人観光客への対応などが謳われている。これらの準備状況、平成20年度予算化の考えを伺う。

平成20年度予算は、観光立町に必要な投資を

問

質問 静岡空港の開港に伴う当地の新たな観光時代への対応について川根本町総合計画の中で、観光に関する主要施

業にも採択されている。来年1月には4ヶ国語による観光ガイドブックを発行する予定。10月にはJTB協定旅館ホテル連盟の観光地域づくり支援事業にも採択されている。



質問 平成20年度予算編成方針について、20年度予算編成に当たっては19年度当初予算額をさらに5%（2億円）減額する考えとのことだが、少な

答 平成20年度も緊縮財政運営を図る方針

町長 県の対応とは別に、町内では、奥大井・南アルプスマウンテンパーク構想の推進の一環として、エコツーリズムワークショップを開催中である。12月には、都市と農村の交流を活性化させるため寸又峡1泊のモデルエコツアーなどを実施した。観光協会において、

農林水産省関東農政局による広域農村総合整備基本調査や、ツアーのアンケート分析等を行い、旅行者の満足度を高める観光地となるよう対応していく。

町長 静岡県立大学岩崎准教授は、圧倒的に静岡でのお茶摘みツアーを希望している人が多いというアンケートの結果から、静岡型グリーンティ・ツーリズムの構築を提唱されている。当町としてもお茶街道推進協議会、生産者、行政等一体になった取り組みを検討していく。良質なお茶の製造に向けた製茶機械の導入について助成を行っているが、農林業センターの小型製茶機械は研究目的で設置してあるので趣旨に合ったお茶づくりを目指す人への貸し出しは積極的に行って行きたい。

町長 20年度の予算は、19年度予算に対して一般財源の5%程度の削減を目標とする方針。限られた財源の中で基金の取り崩しに頼らない予算シstemを確立する大事な時期と考えている。静岡空港開港への対応としては、県の進める事業のなかでモデル地域として、道路標識の整備を進め地域振興の起爆剤としていきたい。

町長 財政調整基金残高を安定的な財政運営ができるレベルまで戻す必要がある。そのために、18・19・20の3年間という期間を設けて体質の改善、行財政改革に取り組んでいる。

観光新時代の拠点となり得る 接岨峡「郷土資料館やまびこ」

「こだわりの川根茶づくり」に挑戦している有志のグループがあるが、このような有志への助成も必要であると思われる。

町長 今後重要な課題であるとの認識はしている。千頭駅周辺の整備については大井川鉄道との連携、寸又峡に関しては観光協会や温泉組合等との連携が必要。国、県等との事業の調整をしながら進めていきたい。

質問 9月に提示された当町の財政シミュレーションも財政の好転の兆しを捉えており、平成20年度もさらに予算削減をしなければならぬということを示していないではないか。

町長 9月に提示された当町の財政シミュレーションも財政の好転の兆しを捉えており、平成20年度もさらに予算削減をしなければならぬということを示していないではないか。